

広島県鉄構工業会が互礼会 改革に向け共に頑張る

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）は21日、広島市で新年互礼会を開催、約50人が参加した。互礼会に先立ち開かれたセミナーでは、山本理事長が「公共工事の設計見積について」と題し講演。広島で進めてきた公共工事積算



山本理事長

の有料化の現状や行政による発注の課題などを説明し、「われわれ行う積算業務についても

その価値が理解され始めており、ファブの地位向上につながりつつある」と有料化の成果を強調した。

続く互礼会であいさつに立った山本理事長は「社会に広くわれわれの仕事や価値を認知してもらい、『カッコイイ』と言ってももらえるようになることが、業界存続には不可欠。担い手の確保という面では、まず労働環境の改善に取り組むことも求められる。残念ながら労働環境では他業界と競い合う土俵にすら上がっていない。賃金アップなどはその先の話だ。旧態依存しては、置いていかれてしまう。改革に向け、共に頑張っていこう」と呼び掛けた。

続いて、来賓を代表し広島県土木建築局の川島満・営繕課長が「デジタル技術の革新への対応や激甚化する災害への備えなど近年、社会環境の変化は激しいが、県民に広島に生ま

れ、住み、育ち、心から良かったと思っただけの県にしていきたい。皆さまには、高度な知見と経験を生か

支援をお願いしたい」と祝辞を述べた。

互礼会には、鉄構工業会会員のほか、日本建築学会の田川浩・中国支部長（広島大学大学院教授）、日本建築構造技術者協会（JSCA）の清水保雄・中国支部長、広島大学の松尾彰・名誉教授、広島工業大学大学院の清水齊・工学系研究科教授、カナイ建築構造事務所

祝辞を述べる川島課長

の南波篤志主任らも出席した。